

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
大原スポーツ公務員専門学校高崎校	平成23年3月17日	羽深 義輝	〒370-0846 群馬県高崎市下和田町5-3-16 (電話) 027-325-1100				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人大原学園	昭和54年4月1日	安部 辰志	〒101-0065 東京都千代田区西神田1-2-1 (電話) 03-3291-0151				
目的	社会体育指導者、健康管理指導者、トレーナー及びスポーツビジネスに関する教育を施し、人格の陶冶を行い、もって社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ学科	平成23年文部科学省告示第166号	-			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1800	525	615	1020	0	0
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人 の内数		29人 の内数	2人 の内数	0人 の内数	2人 の内数		
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業科目ごとに行う試験によって、優、良、可、不可の判定を行う。			
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月下旬～8月中旬 ■冬季:12月上旬～1月上旬 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	所定の授業時間数以上履修し、かつ、その該当する授業科目について合格に達して卒業資格を得た者。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 保護者への連絡および通知		課外活動	■課外活動の種類 各種クラブ活動の大会参加 ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 ㈱東祥、㈱スポフレ21、㈱わくわくホールディングス、㈱ケイ・ジー・ター、イオンリテール㈱南関東・新潟カンパニー合同、㈱キーテクノロジー ほか ■就職率※1 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合※2 : 100 % ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	AFAA(PC、FDEC、RT) NAUISクーバダイバー キャンプインストラクター 漢字検定 電卓検定			
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成28年4月1日時点におい 在学者 29名 平成29年3月31日時点にお 在学者 29名 ■中途退学の主な理由 経済的事情・病気・進路変更 ■中退防止のための取組 事例に基づく指導方法の確認、担当者間の情報共有と定期面談(本人および保護者)を実施。		中退率	0 % (平成28年4月1日入学者を含む) (平成29年3月31日卒業者を含む)			
ホームページ	URL:http://www.o-hara.ac.jp						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先である一般事業会社(スポーツトレーナー職、営業販売職等)と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②スポーツ分野における学修の中心となるスポーツトレーニング知識、指導能力は勿論のこと、レクリエーション能力の開発などの教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。
- ④当学園の教育課程の編成は一部の学科を除き学園本部が統括している。そのため教育課程編成委員会も各分野ごとに各校共通の組織を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

①位置付けについて

教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。また、委員会での協議結果は大原学園教育本部に提出し、大原学園全校の教育課程編成にも活用していく。

②意思決定の過程について

(ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。

(イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。

(ウ)委員会での協議内容は学園教育本部に提出し、学園全校の教育課程編成にも活用していく。

(エ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、就職本部長、教務本部長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
高畑 一郎	大原学園 大原簿記学校	-	
堤 敦	大原学園 大原簿記学校	-	
中野 信男	大原学園 大原情報ビジネス専門学校	-	
羽深 義輝	大原学園 大原簿記学校	-	
児玉 紀裕	大原学園 大原法律専門学校	-	
村田 美保	大原学園 大原医療秘書福祉保育専門学校	-	
山本 浩之	大原学園 大原医療秘書福祉保育専門学校	-	
児玉 紀裕	大原学園 大原法律専門学校	-	
若井 浩美	大原学園 医療大宮校	-	
杉山 雅信	大原学園 大原情報ビジネス専門学校	-	
青柳 六郎太	一般財団法人 ICT経営パートナーズ協会	H27.4.1~H29.3.31	①
小林 寛三	一般財団法人 ICT経営パートナーズ協会	H27.4.1~H29.3.31	①
松村 剛	一般財団法人 日本フィットネス産業協会	H27.4.1~H29.3.31	①
水口 錠二	一般財団法人 日本医療報酬調査会	H27.4.1~H29.3.31	①
嶋田 芳男	東京家政学院大学	H27.4.1~H29.3.31	①
大塚 良一	東京成徳短期大学	H27.4.1~H29.3.31	①
岡本 正義	岡本正義税理士事務所	H27.4.1~H29.3.31	③
加藤 善孝	優成監査法人	H27.4.1~H29.3.31	③
田口 操	田口パートナーズ会計	H27.4.1~H29.3.31	③
畑中 達之助	株式会社 さくらケーシーエス	H27.4.1~H29.3.31	③
今野 隆一	ジャパンシステム 株式会社	H27.4.1~H29.3.31	③
細田 昌幸	イオンリテール 株式会社	H27.4.1~H29.3.31	③
高橋 良	株式会社 ルネサンス	H27.4.1~H29.3.31	③
南方 慎治	株式会社 ルネサンス	H27.4.1~H29.3.31	③
千葉 真一	社会福祉法人 三井記念病院	H27.4.1~H29.3.31	③
後藤 康成	社会福祉法人 煌徳会	H27.4.1~H29.3.31	③
宍倉 一麻	社会福祉法人 八千代美香会 朋松苑	H27.4.1~H29.3.31	③
坂本 京子	社会福祉法人 幸友会 新鶴見にこにこ保育園	H27.4.1~H29.3.31	③
藤田 美樹	株式会社 こどもの森 まなびの森保育園勝どき	H27.4.1~H29.3.31	③
櫻本 正樹	東洋大学	H28.4.1~H30.3.31	②
鎌田 修広	株式会社 タフジャパン	H28.4.1~H30.3.31	③
西山 賢太郎	株式会社 コナカ	H27.4.1~H29.3.31	③
羽深 義輝	大原学園 高崎校	-	
倉石 学	大原学園 高崎校	-	
小嶋 一夫	株式会社群馬バス	H28.4.1~H30.3.31	③
中野 隆二	税理士法人合同会計	H28.4.1~H30.3.31	③
永井 正志	富士ゼロックス群馬株式会社	H27.4.1~H29.3.31	③
新井 良和	医療法人社団美心会黒沢病院	H28.4.1~H30.3.31	③

森 順子	社会福祉法人玉樹会特別養護老人ホーム明生苑	H28.4.1～H30.3.31	③
佐藤 竜太	セントラルスポーツ株式会社セントラルウェルネスクラブ高崎	H27.4.1～H29.3.31	③
金光 寛之	高崎経済大学	H27.4.1～H29.3.31	②
柳澤 景子	社会福祉法人岳雄会幼保連携型認定こども園エデュカール城之内	H28.4.1～H30.3.31	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催。

第1回：5月「前年度の教育成果の振り返りと今後の取り組み」

第2回：7月「今年度の取り組みに関する報告・課題整理、次年度以降の教育内容に関する見直し」

（開催日時）

第1回 平成28年5月12日 15:30～17:00（地方委員会）

平成28年5月21日 13:30～15:00（本部委員会）

第2回 平成28年7月12日 15:30～17:00（地方委員会）

平成28年7月23日 11:00～12:00（本部委員会）

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

① 第1回目の委員会では、職員向け「教養政治」の実習、演習の導入及び「教養政治」「教養経済」以外の実習・演習として考えられるものに関して意見をいただいた。この件に関しては、「法律概論」の先行導入が必要との意見を頂き、実施の運びとなった。

第2回目の委員会においては、「専門学校生におけるPCスキルの有用性」に関するご提言、ご意見等をいただいた。PCスキルについては、公務員に限らず「就職」するにあたっては、必ず必要となるスキルであるため、今後も継続実施を求める等の意見を頂いた。

② 上記①については、上述のとおり、「法律概論」において頂いた活用方法を取り入れ、カリキュラムに反映することとなった。

③ 新たに上がる提言に関しては、今後開催される委員会にて確認を行い、次年度以降も継続して教育課程の編成を実施していく予定である。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

① 法律行政分野における実習・演習は、教育社会福祉分野、工業分野等の分野と異なり、企業等との連携の下、学内で行なわれる学習科目が多いことを考慮して、実習・演習の組立を行なう。

② 企業等との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。

③ 企業等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を仰ぐ。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

法律、経済、行政の仕組み、授業運営に関して企業等と協定書を締結、打合せを行い、下記の4点について講義内容の質向上のために連携している。

① 実習授業内容構築へのサポート

② 当該実習授業における評価ポイントの確認

③ 授業方法に関する教員への指導

④ 学生の学修習熟状況の評価

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
キャンプ実習	キャンプインストラクター資格取得に向けた知識習得を目的とする。 キャンプの歴史や安全、マナー、実技指導を学ぶ。	株式会社ルネサンス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記のとおり教員研修の環境を整える。

- ①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
- ②大学教授等専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施
- ③学内に設置される附帯教育講座を利用した自己啓発

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

尚未完務分野の指導に必要の専攻分野における実務に関する研修等および指導力の研修等について、学内において下記の教員研修会を開催した。詳細は別紙参照のこと。

- ①イオンリテール(株)による実務における具体的な題材をテーマにしたマーケティング実務および指導力研修会の実施
- ②指導力の修得・向上のための研修等

同上

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

昨年同様、下記のとおり教員研修を計画実施している。詳細は別紙参照のこと。

- ①イオンリテール(株)による実務におけるマーケティング・分析・企画立案ならびにプレゼン手法の知識および講義ポイント
- ②指導力の修得・向上のための研修等

同上

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、学校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特徴はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2) 学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3) 教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行なう事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。
(4) 学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。

(5) 学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6) 教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8) 財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9) 法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

今年度の学校関係者評価委員会にあたり、卒業生の社会適応能力について多くの意見を頂いたため、コミュニケーション能力、組織への適応について、日々の学生指導においてこれまで以上に強く意識していくことを確認した。クラスでの担任の指導はもちろんのこと、全員参加の各種学校行事やクラブ活動を通じて、社会適応能力を高める環境を積極的に提供していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
小嶋 一夫	株式会社群馬バス	H28.4.1～H30.3.31	企業等委
金光 寛之	高崎経済大学	H27.4.1～H29.3.31	企業等委
柳澤 景子	社会福祉法人岳雄会幼保連携型認定こども園エデューカーレ城之内	H28.4.1～H30.3.31	企業等委
中嶋 文雄	-	H28.4.1～H30.3.31	地域住民
新井 良平	富士ゼロックス群馬株式会社(卒業生)	H28.4.1～H30.3.31	卒業生
大谷 優作	株式会社ファクトリージャパングループ(卒業生)	H28.4.1～H30.3.31	卒業生
鈴木 瑠波	群馬県学校事務(富岡高校)(卒業生)	H27.4.1～H29.3.31	卒業生
佐藤 美早	学校法人清和学園 認定こども園鬼石幼稚園(卒業生)	H28.4.1～H30.3.31	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

<http://www.o-hara.ac.jp/about/jissen/>

7月末公表予定

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ① 実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。
- ② また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。
- ③ 情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②目標・方針・特色 ③所在地、連絡先 ④学校の沿革
(2) 各学科等の教育	①カリキュラム、時間割、目指す資格 ②検定、資格取得・検定試験合格実績 ③卒業生の進路
(3) 教職員	各学科の担当教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生の募集
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.o-hara.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 スポーツ学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			漢字演習	漢字検定資格取得に向けた日本語、漢字の知識力向上を目的とする。 漢字検定の過去問を中心とした問題演習を通じて学ぶ。	1 ②	20		○			○		○		
○			文章表現	社会人としてふさわしい文章表現を身に付けることを目的とする。 テーマに応じた作文作成を通じて学ぶ。	1 ②	10		○			○		○		
○			パソコン実習	MOS (Excel) 試験に向けた実技能力向上を目的とする。 スピード、正確性を向上させるトレーニングを行う。	1 ③	10				○	○		○		
○			ワープロ実習	ワープロ検定資格取得に向けた実技能力向上を目的とする。 スピード、正確性を向上させるトレーニングを行う。	1 ③	10				○	○		○		
○			ワープロ基礎知識	PC操作の基本 ワードの基本操作を身に付けることを目的とする。 校内のPCを利用し実践的なトレーニングを実施する。	1 ③	10		△		○	○		○		
○			ビジネス文章	企業内で必要とされる文書作成を身に付けることを目的とする。 ビジネス文章作成、メール送信文作成を通じ実践力を身に付ける。	1 ③	10		△	○		○		○		
○			一般常識	日常的に利用する漢字能力を身に付けることを目的とする。 ビジネスで一般に使用される熟語は勿論のこと四字熟語、慣用句なども学ぶ。	1 ②	55			○		○		○		
○			特別講座	外部講師による講座で、社会性、集団性を学ぶことを目的とする。 外部講師による様々な講座を受講することにより、社会とのかかわり方、協調性などを学ぶ。	1 ②	5		○			○			○	
○			健康管理概論	健康管理の現状や方法を学ぶことを目的とする。 健康の現状を知り、健康の測定、指標、影響因子、疾病予防、健康増進方法を学ぶ。	1 ①	20		○			○		○		
○			スポーツ社会学	現代社会で起きている問題とスポーツとの関わりを通じて「スポーツ社会学」の概念を学ぶことを目的とする。 スポーツの役割や影響について学習する。	1 ①	20		○			○		○		
○			スポーツ生理学	呼吸循環系・エネルギー代謝、筋力発揮のメカニズムに関する知識習得を目的とする。 運動により生じる反射機能を中心に学習する。	1 ①	20		○	△		○		○		

○		スポーツ心理学	運動と心理面のかかわりに関する知識習得を目的とする。心理面を考慮しての指導法を学ぶ。試合に向けた心理的サポートやイメージトレーニングについて具体的な方法を学ぶ。	1 ①	20		○		○	○					
○		スポーツ医学	生活習慣病と運動の関係の知識習得を目的とする。健康づくりのための運動基準2006に理解を深めることにより病気改善法を学ぶ。	1 ①	20		○	△	○	○					
○		スポーツ指導論	トレーニング時における注意点やリスクマネジメントについての知識習得を目的とする。インターネットの活用や映像を使用して情報収集の必要性について学ぶ。	1 ①	20		○		○	○					
○		スポーツ運動学	バイオメカニクスの視点からの運動知識習得を目的とする。運動の分析についてポイントをおさえ、各スポーツ動作、トレーニング動作について学ぶ。	1 ①	20		○		○	○					
○		コーチ学	スポーツ競技者に対するコーチング方法を学ぶことを目的とする。運動指導者として知識面、技術面だけでなく、心理面についても学ぶ。	1 ②	20		○		○	○					
○		スポーツと栄養	運動と栄養に関するメカニズムを学ぶ事により身体づくりの知識習得を目的とする。日本人の食事摂取基準や目的別の食事管理を学ぶ。	1 ②	20		○	△	○	○					
○		スポーツ解剖学	身体の骨・筋肉構造に関する知識習得を目的とする。機能解剖学やバイオメカニクスの基礎的知識を学び、運動動作の正確性について理解する。	1 ①	20		○	△	○	○					
○		体力測定と評価	体力測定の実施方法、評価方法を学ぶことを目的とする。測定の意義と目的から、測定の種類、具体的な実施方法、評価やフィードバック方法を学ぶ。	1 ②	20			○	○	○					
○		トレーナー基礎理論・実習	トレーナーとしての知識を実技を通じて身につけることを目的とする。トレーニングの正確動作は勿論のこと機械や道具使用時のグリップや補助法を学ぶ。	1 ①	100		△		○	○	○				
○		トレーニング論・実技	エクササイズの主な分類を実技を通して身につけることを目的とする。動作中に動員される各筋肉を理解し、効果的なトレーニング方法を学ぶ。	1 ②	100		△		○	○	○				
○		一般トレーニング実技	エクササイズの主な分類を実技を通して身につけることを目的とする。動作中に動員される各筋肉を理解し、効果的なトレーニング方法を学ぶ。	1 ①	40		△		○	○	○			○	
○		テーピング論・実習	スポーツ現場でのテープによる傷害防止と応急処置を身につけることを目的とする。足関節、腰部、手首、肩関節を中心にテーピング方法を学ぶ。	1 ②	40		△		○	○	○				
○		スポーツマッサージ	スポーツ実践者に対する効果的なマッサージ方法を身につけることを目的とする。軽擦法、揉捏法、叩打法のマッサージ方法を学ぶ。	1 ③	40		△		○	○	○				
○		救急法・蘇生法	基本的な救急処置の技術習得を目的とする。RICE処置を学ぶことにより、二次的外傷性損傷の知識を身につける。	1 ①	20		△		○	○	○				

○		エアロビクス 運動論	エアロビクスの基礎的な知識を身につけることを目的とする。 エアロビクスの身体的効果や心理的効果を学ぶ。	1 ①	40		○		○						○
○		エアロビクス 実技	エアロビクスの実技を通して、エアロビクス動作の習得を目的とする。 動作の名称やカウントのとり方、集団に向けた指導方法を学ぶ。	1 ②	40				○	○					○
○		ジョギング 論・実技	ジョギング指導ができることを目的とする。 ジョギング動作の特徴や効果、初心者からアスリートまでのそれぞれの指導方法を学ぶ。	1 ①	20				○		○	○			
○		水泳実技	水泳指導方法を身につけることを目的とする。 水の特性や効果、動作の特徴を学習し、基礎的な指導方法を学ぶ。	1 ①	10		△		○		○				○
○		キャンプ実習	キャンプインストラクター資格取得に向けた知識習得を目的とする。 キャンプの歴史や安全、マナー、実技指導を学ぶ。	1 ②	20		△		○	○	○	○			○
○		専門コンディ ショニング	スポーツの目的に応じたコンディショニング方法の習得を目的とする。 各スポーツ動作の特性を学習し、特性に合った専門的なコンディショニング方法を学ぶ。	1 ①	80				○	○		○			○
○		一般教養	中学・高校で学んだ教養力を再度身に着けることを目的とする。 一般的な国語、数学、英語の知識を学ぶ。	2 ①	40				○		○		○		
○		時事対策	現代社会における主要な時事に関する知識習得を目的とする。 朝日キーワードを中心とした時事の解説し学生が周辺知識を調べ、より理解を深める。	2 ②	40		△	○		○		○			
○		漢字演習	漢字検定資格取得に向けた日本語、漢字の知識力向上を目的とする。 漢字検定の過去問を中心とした問題演習を通じて学ぶ。	2 ①	40				○		○		○		
○		ビジネスマ ナー	企業内で必要とされる基本業務を身に付けることを目的とする。 電話対応、接客、接客などの基本ルールを学ぶ。	2 ②	40				○		○		○		
○		サービス知識	サービス業に必要な基礎知識習得を目的とする。 接客や営業に必要なスキルについて理解を深める。	2 ②	40		△	○		○		○			
○		特別講座	外部講師による講座で、社会性、集団性を学ぶことを目的とする。 外部講師による様々な講座を受講することにより、社会とのかかわり方、協調性などを学ぶ。	2 ①	40				○		○				○
○		プレゼンテー ション基礎知 識	プレゼンテーションの手法を理解することを目的とする。 プレゼンテーションの使用場面の事例や効果的な表現方法等を学ぶ。	2 ②	40				○		○		○		
○		企業研究	就職活動先企業、及び内定先の企業を理解することを目的とする。 業務内容や取扱商品について知識を深める。	2 ①	100		△	○		○		○			

○	企業体験実習	企業での実習を通して、各企業の業務内容を理解することを目的とする。 事務作業や、お客様との関わりを実践を通して身に付ける。	2 ②	200	△	○	○	○	○	○
○	就職活動対策	就職活動で必要とされる基本スキルを身に付けることを目的とする。 書類作成や筆記対策、面接トレーニングなどの実践的なトレーニングを行う。	2 ①	140	△	○	○	○	○	○
○	簿記原理	簿記の基本原理の理解を目的とする。 個人商店を前提とした複式簿記の基本原理を学ぶことで簿記の基本原理を理解させる。	2 ②	40	○	△	○	○	○	○
○	簿記通論	個人商店を前提とした会計処理方法の習得を目的とする。 一般的な商取引に対する会計処理、簿記の基礎にある初歩的な会計理論を学ぶ。	2 ②	40	○	△	○	○	○	○
○	商業簿記論	基本的な財務報告書類の作成方法の習得を目的とする。 決算整理を中心とした会計処理および勘定形式の報告書類作成方法を学ぶ。	2 ②	40	△	○	○	○	○	○
○	簿記3級総合	簿記3級検定合格程度の計算技術の習得を目的とする。 入門レベルではやや難しい会計処理を問題演習を通じて学ぶ。	2 ②	60	△	○	○	○	○	○
○	スポーツ心理学	運動と心理面のかかわりに関する知識習得を目的とする。心理面を考慮しての指導法を学ぶ。 試合に向けた心理的サポートやイメージトレーニングについて具体的な方法を学ぶ。	2 ①	30	○	○	○	○	○	○
○	スポーツ指導論	トレーニング時における注意点やリスクマネジメントについての知識習得を目的とする。 インターネットの活用や映像を使用して情報収集の必要性について学ぶ。	2 ①	30	○	○	○	○	○	○
○	トレーナー基礎理論・実技	トレーナーとしての知識を実技を通じて身に付けることを目的とする。 トレーニングの正確動作は勿論のこと機械や道具使用時のグリップや補助法を学ぶ。	2 ①	40	△	○	○	○	○	○
○	トレーニング論・実技	エクササイズ的主要な分類を実技を通して身に付けることを目的とする。 動作中に動員される各筋肉を理解し、効果的なトレーニング方法を学ぶ。	2 ①	40	△	○	○	○	○	○
○	レクリエーション野外実習	レクリエーションの発展過程を見据えながら目標と理念、レクリエーションの展開方法などを身に付けることを目的とする。キャンプ実習、キッズインストラクター実習などの実習を通じて、レクリエーション計画・実施・評価の方法や安全管理について学ぶ。	2 ①	40	△	○	○	○	○	○
○	ワープロソフト実習	ワープロ検定資格取得に向けた応用力向上を目的とする。 ワープロ検定の過去問を中心とした問題演習を通じて学ぶ。	2 ①	60	○	○	○	○	○	○
○	ワープロ技術知識	PC操作の応用 ワードの応用操作を身に付けることを目的とする。 校内のPCを利用し実践的なトレーニングを実施する。	2 ①	40	△	○	○	○	○	○

○	表計算ソフト 実習	Excelを使用した実践能力向上を目的とする。 給与計算、分析資料作成など、実社会で通用する技術を身につけるため、行内のPCを利用し実践的なトレーニングを実施する。	2 ①	80	△	○	○	○		
合計		53科目	2, 160単位時間( 単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>(試験)</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって、これを定める。 ただし、授業科目によってはその他の方法で査定することができる。</p> <p>2. 試験には定期試験、追試験および再試験等がある。 追試験は、やむを得ない事故等により定期試験を受けなかった者に対して行い、再試験は、受験の結果、不合格となった者のためにこれを行う。</p> <p>3. 追試験及び再試験は、本校において必要と認められた場合に限りこれを行う。</p> <p>(学業成績)</p> <p>学業成績の判定は優、良、可、不可の4種をもって表し、次のとおりとする。 優は80点以上、良は60点以上、可は50点以上、不可は49点以下とし、 優、良、可を合格、不可は不合格とする。</p> <p>(卒業)</p> <p>本校に在学し、下記に定める授業時間数以上履修し、 かつ、その該当する所定の授業科目について 合格に達して卒業資格を得た者には、卒業証書を授与する。 ・ 経理本科2年制学科 1, 800時間</p>	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。